

－権力闘争真偽の簡易な見分け方(正論で負けると悪化勢力は個人攻撃一途)－ 2010/8/27

国家国民は優生貴族の搾取対象と言う CIA 軍産複合体の暴力の戦後支配日本。正論で負けると陰險な個人攻撃一途、逆に之の有無こそが正論偽論を見破る特徴的的症状である。

[1]：政治真相熟知の専門家かすれば全く歯がゆい、大規模に騙される多数日米国民。

以下サイトは現状日米政治真相の本質を見事簡明に要約してます。政治結果は政治家を選択した国民自身が最終的に被ると言う普遍事実に市民は常時念頭に命じて下さい。

(1)民主主義国日本の国民は売国日本人を見破る眼力が求められる

http://blogs.yahoo.co.jp/hisa_yamamot/17904122.html

(2)大局観とデコンストラクション(ご破算と再建)思考に欠けた日本の悲劇

<http://fujiiwaraha01.web.fc2.com/fujiwara/article/zaikai100101.html>

(3)戸部他 5 名, 失敗の本質(過剰適応の不適応), ダイアモンド社, 1984.

日本人は過去成功体験に一途固執し、時代変化(発想逆転)に適応しない。

[2]：悪化勢力常套手段は手下の大既成マスコミ&政治屋等を使い、ひたすら個人攻撃。

正論理屈で負けた者が最終的に取る手段は、正論を隠蔽捻じ曲げる為に言いだしっぺ人物への個人攻撃、公私の個人事情のあら捜し、もし無ければでっち上げ、CIA 謀略演技劇場に標的人物を誘い込み、畏、もしくは目標人物周辺に買収-脅迫で偽証する人物を作り、落とし込むのが典型。この技術はナチスのパンセ謀略理論以来、戦後 CIA 創立に関してナチス幹部+技術者多数を密輸入(operation paper clipp)、戦後徹底して高度に技術開発され、米本国、衛星国の日本、中南米、中東、アジア等世界各地で大規模実施された。これらの技術は日本では政治警察-検察高級幹部が渡米 CIA 留学で教育訓練を受けるとされる。また平時の主要諜報機能である{電通総司令部+大マスコミ}も国民洗脳心理戦術を頻用。

素人と言うのは{金-地位, 性, 酒薬物等}の**欲得醜聞**には容易に飛びつくものだ。現代日本の TV 新聞+週刊誌等の衆愚記事を見れば犯罪事件報道と個人醜聞の話題ばかりが目立つ。

[3]：戦後以来の米追従官僚危機感=庶民田中派の申し子=小沢氏の「生活第一」。

CIA 騙し世界の定石は素人が簡単に発想転換できない弱点を突いた**常識逆転**にある。

実は小沢氏こそが「生活第一」で**政権交代民主党を実現**、具体的に上記官僚利権を国民生活に回す政策を打ち出した事で長期甘い汁にあった CIA 米軍産複合体-戦後日本官僚体制は実力源=彼を謀略で潰す事に。小沢氏は同様な政治手法で米国に潰されたかつてのボスを身近に見ており、政治資金では常に監視を意識、合法に徹した。彼の稀有特徴は徹底して言い訳と個人攻撃をしない点、之が判りにくさ一つ要因だが、彼を金と政治の人と思う多数国民はまさに CIA マスコミの真相逆転の騙しに見事に乗せられ、己自身の置く将来日本を危うくしてる事だ。だが民主党支持者多数がこの真相を周知してる。